

調査時期：令和元年（2019年）9月
 調査対象：26道立保健所（回収率100%）
 調査方法：アンケート調査

1 糖尿病連携手帳の提示促進資材の活用状況

活用している（活用予定含む）	13	➡	活用資材	
活用を検討している	11		糖尿病対策小委員会作成三角柱	9
活用の予定はない	2		旭川地区糖尿病連携地域協議会作成三角柱	2
合計	26		保健所が独自に作成した資材	2

○「活用を検討している」、「活用の予定はない」と回答した保健所に対しての設問
 【資材活用を進めるにあたり課題となっていること】（複数回答可）

関係機関の理解が得られない	0
資材活用を協議する場・機会がない	4
糖尿病連携手帳の普及がされていない	4
特に課題等はない	2
今後活用に係る協議等を行うため、課題把握に至っていない	3
その他	1

2 資材配布先と冊数（「資材を活用している」と回答した保健所13カ所の計）

配布先	配布冊数
専門医	35
かかりつけ医	869
歯科医療機関	614
眼科医療機関	68
市町村	60
薬局	317
その他	101

「その他」内訳
 ・薬剤師会、歯科医師会、栄養士等関係団体、
 糖尿病専門部会等

3 資材活用へ向けた準備・工夫点等について（複数回答可）

圏域連携推進会議専門部会等における資材活用に係る協議	6
医師会等の職能団体への説明・協力依頼	5
多職種対象の研修会・学習会等にて資材活用に係る情報提供	4

4 「資材を活用している」と回答した保健所で把握している、資材活用による効果等について

- ・重症化予防を進める際の保健分野の関わりと医療機関の役割が分かった。
- ・市町村保健師から、手帳を所持する患者が増えている。未所持の患者には保健師から手帳を渡しているとのこと。

*活用状況について、今後調査を実施予定と回答した保健所が多かった。